

入 管 事 件 簿

(2008年～2010年8月) 西日本入管センターのみ

過去の事件簿：2006年以前 http://rafiq.jp/siryou/96-05n_jikenbo.pdf

2006年～07年 http://rafiq.jp/siryou/06_0710n_jikenbo.pdf

注：(支援団体) とはおもに「入管問題かんさい支援ネットワーク」を指しています。

2007年	
～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食 鶏肉などが生で入っていることがあり、食あたりを起こした被收容者がいる。(支援団体) ・ 通信妨害 被收容者自身の処遇改善要求の署名を支援者に渡すことができない。(支援団体) ・ 通信妨害 手紙など入管に依頼し、郵送手続きを取ったにもかかわらず、未着。(支援団体)
12月初め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処遇改善要求 入管に対し申し入れ、被收容者の30名の署名入り。(支援団体) http://rafiq.jp/event/071212isseimenkai.html
12月末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題、通信妨害 医師の作成したアンケートを差し入れ、面会で説明、後日回収(あるいは郵送回収)しようとしたところ、医療行為として差し入れ拒否。(支援団体)
2008年	
1月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自殺 送還予定だった20歳代のインド人男性が首をつって自殺(1・5朝日新聞大阪版)
3月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題 歯痛で苦しむ被收容者を長期にわたり、外部歯科医療の申請を不許可。(支援団体)
3月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題、処遇問題 仮放免後、歯の治療をした元被收容者が当時書いた「入管への抗議の手紙」を支援者に公表。(支援団体) http://rafiq.jp/siryou/0803letter.html
3月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題 通院を求め、被收容者が帰室拒否し座り込みを行なうと、ヘルメットと手袋で武装した警備員が部屋に戻そうとして、十数名がもみ合いになった。(4・5朝日新聞)2日後によろやく通院。
4月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題、投薬ミス いつもの便秘薬を飲むはずなのに、テルモベートという、便秘薬と同じように15滴だけ水に溶かして頭に塗るかゆみ止めの薬を水に溶かしたものを飲まれて、Aさんは薬の容器がいつもと違っていたので違うと言うと、職員が取り換えた。(支援団体)
5月2日～3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題、投薬ミス 前日に外部受診に行き、セルニルトンという薬を処方されたが、医者は薬をいつ飲むのか、どのような副作用があるのかなどの説明を職員にし、Aさん本人にはしなかった。その薬は1日2回、朝と晩服用なのに、3日は職員が昼にも持ってきた。その時Aさんは薬を1日に何回飲むのかも知らされておらず、言われるがままに服用した。(支援団体)

5月6日	<p>・医療問題、投薬ミス</p> <p>いつもの便秘薬と思い服用。口にすごい違和感があった。その後すぐに職員に、「薬を間違った」と言われた。間違った薬は、以前にも間違いがあったテルモベートという塗り薬。その後Aさんは、胸の痛みや吐き気、頭痛、目が充血がしてきたので深夜に病院に胃の洗浄を受けた。その後も吐き気や頭痛などが、次の日に支援者が面会する時も続いていた。(支援団体)</p>
5月29日	<p>・暴行事件、元被収容者が勝訴</p> <p>2002年の骨折事件、大阪高裁が入管に慰謝料支払いを命令(5・30 毎日新聞)</p>
6月24日	<p>・処遇問題等</p> <p>入国管理における人権保護の状況に関する質問主意書(辻元清美議員) (2008年6月16日付) http://www.kiyomi.gr.jp/kokkai/inquiry/01_q/20080616-1626.html その答弁書 http://www.kiyomi.gr.jp/kokkai/inquiry/02_a/20080624-1636.html</p>
7月～	<p>・処遇の改善を要求</p> <p>土曜日曜のブロック開放を求める署名 → 2008年10月より13時～16時までの開放、2010年7月より平日と同じ9時～11時30分までの開放も追加 (支援団体)</p>
7月18日	<p>・医療問題、投薬ミス</p> <p>セルニルトンという薬は、通常は1日2回、朝と夜の食後だけなのに、寝る前にも渡された。そのあと調子が悪くなり、フラフラして、吐き気がした。吐いたときに職員に薬をまちがったんじゃないかと聞くと、「ない、ない」と答えた。しかし、吐いたものをみると薬があったので見せたら、あとで偉い職員が来た。(支援団体)</p>
8月1日～9日	<p>・医療問題、投薬ミス</p> <p>日中運動をする被収容者の要求で、日焼け止めとしてワセリンを渡され、職員の前で塗り、後は回収。その後運動をしていた。6日の朝、痛みを感じたので、その薬として「オクソラレン0.3%」という薬を渡された。前のものと2種類を同時に使うと効果がある、薬を塗ってから日光にあたると効果がある、と職員が医者に指示されたことを伝えてきた。翌朝、水ぶくれ。外部病院で診察すると、薬のせいと言われた。6日～9日まで横になることができず、服も着られない。</p> <p>7日、約1日、懲罰房へ。「入院したい」と言っただが、聞いてくれなかった。医師も職員も「がまんしろ」。謝罪なし。医師が診断書や処方箋の薬名を改ざん。(支援団体)</p> <p>http://rafiq.jp/siryuu/0808touyaku_miss.html</p>
8月22日	<p>・医療問題、投薬ミスの新聞報道</p> <p>収容男性に誤投薬 便秘に頭のかゆみ止め (8・22朝日新聞 夕刊)</p>
12月9日	<p>・医療問題、投薬ミス</p> <p>入管が投薬ミスをみとめ、投薬ミス以降再発防止の具体策として男性ブロックにもピルケースを設け、朝、昼、晩きちんと内容を確認するようにした。</p> <p>処方箋の開示はその制度を作ることで検討中(申し入れによる回答)</p> <p>→ 薬剤師を雇用(2009年2月の申し入れ時に回答)</p>
2009年	
2月	<p>・処遇 給食</p> <p>食事に髪の毛等の混入が続いている。栄養が偏ったものになっている(入管も承知していた) → 4月より給食業者を変更(申し入れの回答)</p>
	<p>・処遇 衛生面</p> <p>毛布など前の人が使っていた形跡のものを次に入ってきた人にそのまま使わせている様子がある。</p> <p>部屋の消毒はない。(申し入れの回答)</p>

5月18日	<p>・医療問題</p> <p>スリランカ人が痔のため3日前から体調不良で同室の被収容者が外部診療を訴えていたが、この日大量出血があり、外部医療機関で手術した後、入管に戻る。3日間放置していた。また、この日から常駐医が来ず、週に2回派遣医が来ることになる。(支援団体)</p>
7月～	<p>・長期収容</p> <p>6月に難民申請者が仮放免されて以後、仮放免申請を何度だしても、支援者からか利用面要求を出しても、対処されない状態が2010年3月ごろまで続く。最終的に半年以上の長期収容者が全体の約半分を占めるまでになる。(支援団体)</p>
8月25日	<p>・処遇問題</p> <p>窓の開放、図書コーナーなどの要望(支援団体) → 検討するとして明確な答はなし。</p>
11月	<p>・再収容</p> <p>移住労働者と連帯する全国ネットワークが全入管の再収容者の数を明らかにする。</p>
11月20日	<p>・長期収容</p> <p>政府、難民申請者を対象に全入管の10月時点の長期収容者の数を明らかにする。(衆議院議員山内康一氏の質問主意書答弁より)</p>
11月20日～	<p>・長期収容</p> <p>長期収容者・難民申請者・日本人配偶者、体調の悪い収容者等、仮放免を求める署名活動を始める～10年3月まで(支援団体)</p>
12月22日	<p>・長期収容</p> <p>11月から12月にかけての長期収容者の数字を明らかにした。2009年12月時点で難民申請者が33名(2008年12月時点:12名)、日本人配偶者が56名。11月初め時点の全国の入管の長期収容者、再収容者の数字も明らかにする。(支援団体 12・23 毎日新聞)</p> <p>・処遇改善要求</p> <p>A、Bブロック、女性収容者が署名入りで入管に処遇改善要求を提出。(支援団体)</p>
2010年	
1月下旬	<p>・強制送還</p> <p>仮放免後日本人配偶者とその家族とともに暮らしていたアフリカの男性が再収容され、5日後に強制送還。(支援団体)</p>
2月	<p>・長期収容と医療問題</p> <p>パキスタン人難民申請者が高血圧で、生活習慣の改善が必要なのに1年以上収容されている。(支援団体)</p> <p>・長期収容と医療問題</p> <p>収容が約1年のパキスタン人男性、体重の激減、時々意識を失う。面会時車いすを使用。原因不明の発熱。うつ病等。(支援団体)</p> <p>・医療問題と処遇</p> <p>中国人女性がもともと子宮の病気があり、外部病院受診をしていた。診断結果は職員に伝えられたが本人に伝えられず、次の外部受信でまだ収容されていることに医師が激怒。(支援団体)</p> <p>・医療問題</p> <p>アフリカ女性の不正出血に対し、適切な診療がなされていない。何度も倒れているのに、単独房に入れられている。(支援団体)</p> <p>・医療問題</p> <p>ビルマ人難民申請者はもともと心臓が悪く、狭心症の疑いがある。何度も入管内で倒れ、外部受診では次に倒れたら入院とも言われたのに、収容が続く。検査の結果や診断書は入管が保管しており、本人が確認することができない。(支援団体)</p>

	<p>・長期収容と医療問題</p> <p>ネパール人難民申請者は胆石で入院する予定だったが、入院前に収容。7カ月間外部受診を申請しているが、いまだに受信できない。他の個所も病気になり、外部受診できたが、診断書など入管が保管し、見せてもらえない。(支援団体)</p>
3月8日	<p>・長期収容 仮放免を求めてハンスト</p> <p>体調不良者や長期収容になっている人の仮放免を求めて、被収容者70名あまりがハンスト(給食拒否)を始める。(支援団体)</p>
3月8日	<p>・ハンスト抗議に対し制圧</p> <p>長期収容に対し帰室拒否し、抗議行動した被収容者に対し、防具で身を固め、堅い手袋などを装備した警備員が被収容者を追い詰め、無抵抗の被収容者5名を懲罰房に5日間入れる。(支援団体)</p>
3月11日	<p>・ハンスト行動の報道</p> <p>11日あたりから各社新聞報道。</p>
3月12日	<p>・支援団体が入管に緊急要請</p> <p>被収容者が要望を出している項目をまとめ、RAFIQほか支援団体が緊急要請を提出。</p>
3月17日	<p>・長期収容</p> <p>収容1年以上の長期収容者が半年前の3倍以上に増えていると、「入管問題かんさい支援ネットワーク」が17日発表。収容者約130人のうち、収容期間が1年以上の外国人は同日現在で42人だった。法務省が公表した昨年8月末の統計では、全収容者数が130人で、うち収容1年以上は12人。長期収容者が6カ月半で3.5倍になったことになる。収容者のうち少なくとも31人は難民申請者。(3・18日朝日新聞)</p> <p>・長期収容</p> <p>支援団体が座り込み。(3月17日NHKニュース)</p>
3月18日	<p>・処遇問題</p> <p>ハンストが一旦休止したが、その日の午後遅く、ハンストに関しての事情聴取。消灯時間が過ぎている。事情聴取は任意なのに説明されていない。日本語ができない被収容者に対し、通訳がつかなかったなど。法務省大臣が調査する旨、発言したことで至急実施されたか。(支援団体)</p>
3月19日	<p>・処遇問題</p> <p>(ハンストや事情聴取のためか)ブロック開放がなされなかったのでハンストを休止の予定をこの日もやる。(支援団体)</p>
7月1日	<p>・処遇問題</p> <p>「入国者収容所等視察委員会」(東京・大阪)が設置され、被収容者に説明される。(支援団体)</p>
7月13日	<p>・長期収容 仮放免</p> <p>被収容者の仮放免時期を一定期間ごとに検証・検討することにした。(法務省プレスリリース)</p>
8月10日	<p>・処遇問題、医療問題</p> <p>照明が暗く、視力がよかったのに悪くなった。(支援団体)</p> <p>・処遇問題</p> <p>窓の開閉について、被収容者が集団で要望したところ、「個人情報もれる」等の回答があった。入管が被収容者個人について「個人情報」侵害を言うのはおかしい。(支援団体)</p>